

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語	189人
② 数学	189人
③ 理科	191人

5 留意事項

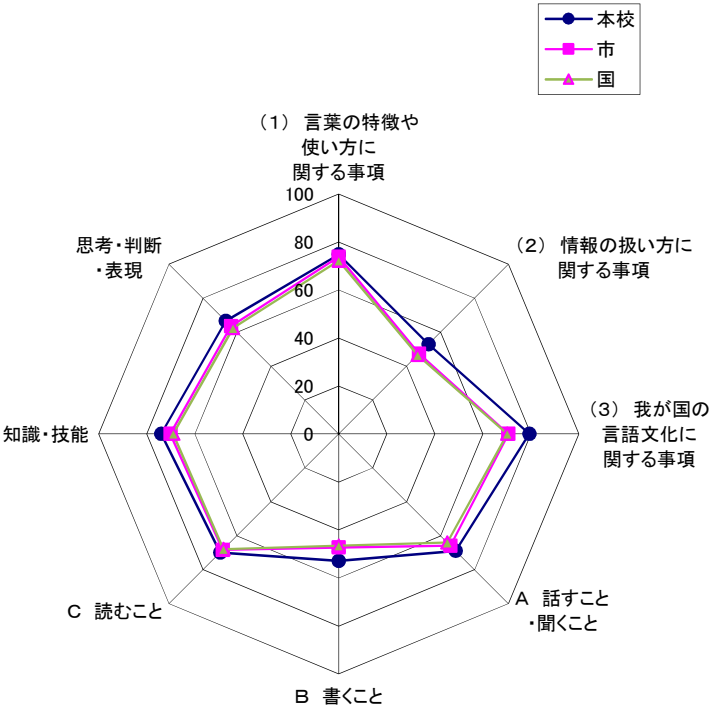
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	74.8	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	52.9	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.4	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	68.9	65.9	63.9
	B 書くこと	52.9	47.3	46.5
	C 読むこと	69.9	68.3	67.9
観点	知識・技能	74.0	70.2	69.0
	思考・判断・表現	66.6	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

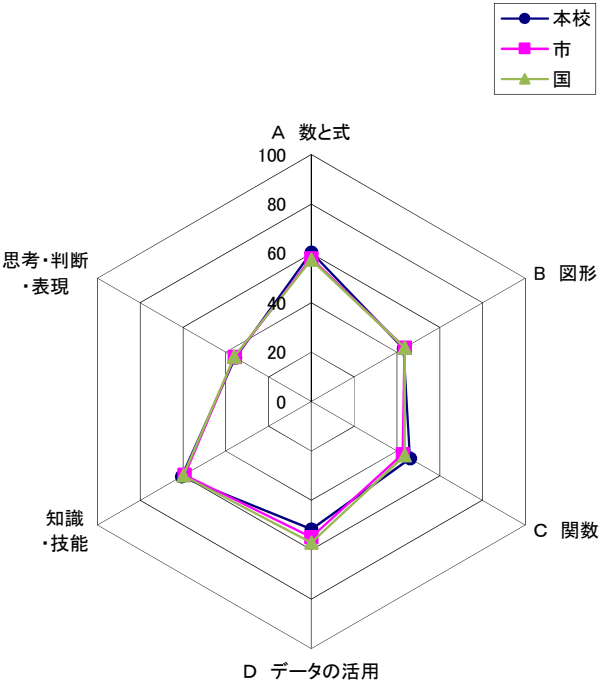
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○言葉の特徴や使い方に関する事項は市平均より1%高かった。特に文章の推敲の問題や、表現技法の問題の正答率が高かった。 ●漢字の書きの問題の正答率が低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの 文法の知識などはついているなかで、漢字の読み書きは不十分であるところが見受けられた。漢字テストを実施するなどして知識定着をはかる。また、読書等を通して文字に触れる機会を増やしたい。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○情報の扱い方に関する事項は、市の平均より5.6%高かった。なお、B書くことと同様の問題だったので、どちらも優れていることがわかる。	情報の扱い方に関する事項の問題は、ウェブページから必要な情報を選択するといった内容だった。インターネットから情報を正しく選択する能力が必要とされるので、調べ学習やレポートにまとめる活動を取り入れる。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項は市の平均より8.7%高かった。 特に行書での書き方の問題は、市の平均より20%以上正答率が高かった。	我が国の言語文化に関する事項では、文字のバランスや行書の特徴についての問題が出題された。行書に関しては書写の授業を通じて学習している。文字のバランスについても同様であり、きちんとした知識が身につけている。今回出題された言葉以外も知識として身につけているか、問題を通して確認して指導していく。
A 話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くことについては市の平均より3%正答率が高かった。 特に話しの進め方を説明する問題では、7.8%市の平均より正答率が高かった。	聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を養いたい。聞き取った内容をもとに、自分の意見を書くことができるような課題にも取り組むようにする。話すことについてはスピーチ原稿の推敲が出題されていたので、書くことと関連付けて指導していく。
B 書くこと	○書くことについては市の平均より5.6%高かった。 なお、書くことについての問題は(2)情報の扱い方に関する事項の問題と同様の問題だったので、どちらも優れていることがわかる。	ウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きその効果を書き加える問題が出題されていた。必要な情報を取り出し、正しく表現する能力を、意見文を書くことや批評文を書く分野でさらに向上させる。
C 読むこと	○読むことについては市の平均より1.6%高かった。 なお、主人公の心情を読み取る問題は市平均より5%正答率が高かった。 ●主人公が納得した内容を、話の展開を取り上げながら書くという問題の正答率が市の平均より1%低かった。	読むことは主に文章読解力を向上させる。そのために、教科書の文章をもとに心情等を考える発問をしたり、読み取ったことを自分の意見として表現できるようにさせる。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	60.4	58.0	57.4
	B 図形	43.1	43.6	43.6
	C 関数	46.1	42.7	43.6
	D データの活用	51.7	54.9	57.1
観点	知識・技能	60.7	59.3	59.9
	思考・判断・表現	35.6	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

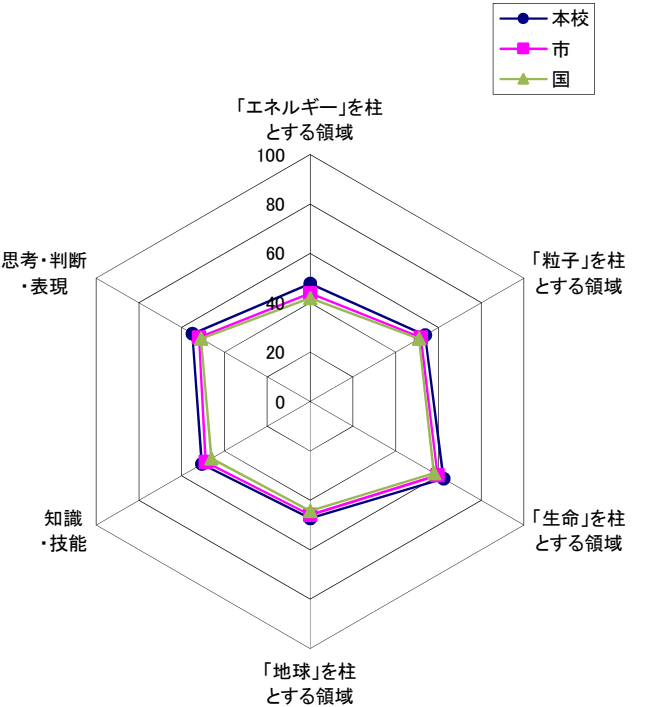
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○平均が市、国よりも上回っている。 ○基本的な計算技能の問題の正答率が高い。 ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題の無解答率が高い。	・基本的な計算技能が身につけている生徒が多く、計算問題などへの解答率が高い。方程式の解答率が高いが、式を変形して理由を説明する問題の正答率がやや低い。文字が何を示しているのかを明確にして、変形を行うことで正確に意味をとらえやすくなるといったことを実感させたい。
B 図形	○三角形の合同条件を答える問題の正答率が高い。 ●平均が市、国の平均と同程度である。	・合同条件を答える、反例を挙げるなど知識を問われる問題への正答率が高かったが、それらを用いて筋道を立てて証明する問題の正答率が低くなっている。これらを受けて、知識・技能をどのように説明に生かすかを考えさせる機会を多く設定し、表現力を身につけさせていく。
C 関数	○平均が市、国よりも上回っている。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することが比較的できている。 ●説明することが比較的できている一方で無解答の割合も多く、二極化が見られる	・事象を説明することは思考力・判断力・表現力を高めるために必要な分野であることから、普段の授業からなぜそうなるのかを問い、様々な事象へ疑問を抱き、解決に導くために必要な情報は何かを選択できるようにしていきたい。
D データの活用	○無解答率が低く、粘り強く問題に取り組む姿勢が見られる。 ●平均が市、国よりも下回っている。	・箱ひげ図は新しく導入された分野であることから問題演習が足りない場合も多いので、問題を繰り返すことで用語の意味や、図が示していることを読み取れるように指導する。

宇都宮市立横川中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	47.7	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	53.8	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	62.4	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	47.3	45.9	44.3
観点	知識・技能	50.6	48.8	46.1
	思考・判断・表現	55.0	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「日常生活の中で物体が静電気を帯びる現象」を問う問題の正答率は全国の正答率を14.7ポイント、県の正答率を12.9ポイント上回った。 ●「おもりに働く重力とつりあう力の矢印を選択し、その力について説明する」問題の正答率は全国、県の正答率を上回ったものの、正答率は、19.3%であった。	・今後も日常生活で目にする事象や現象について授業で扱ったり、教科書で学習した事柄と連携させて考察する機会を設けたい。 ・エネルギーの分野で扱う項目は目に見えない現象も多いので、実験や体験を通してイメージしやすい方法で指導したり、教材を工夫したりしたい。
「粒子」を柱とする領域	ほとんどの問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「分子のモデルを表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す」問題の正答率は全国の正答率を8.4ポイント、県の正答率を9.1ポイント上回った。 ●「液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象について」問う問題で、全国の正答率を8.3ポイント、県の正答率を9.0ポイント下回った。	・化学反応の作り方を学習する際、原子のモデルを使って個別作業しながら進めていたことが効果的であると分かったので、今後も継続していきたい。 ・日常生活で目にする事象や現象について授業で扱ったり、教科書で学習した事柄と連携させて考察する機会を設けたい。
「生命」を柱とする領域	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「生物Xが昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確して判断する」問題の正答率は全国の正答率を7.2ポイント、県の正答率を2.8ポイント上回った。 ●「予想や仮説と異なる実験の結果がでる場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実際の操作や条件制御不備の可能性を指摘する」問題の無回答率は、15.6%であった。	・理科ではさまざまな分類を扱うが、どの分類においても基準に基づいて整理させ、実際に分類させることが有効であると考えられるので、授業で扱っていききたい。 ・授業で扱う実験において、予想や仮説と異なる実験の結果がでる場合があるが、そのたびにその意味することや原因を考察させていきたい。 ・授業において、実験後の考察や自分の考え、分かったことなどを自分の言葉で書く機会を多く設定したい。
「地球」を柱とする領域	全ての問題で、全国、県の正答率を上回った。 ○「玄武岩の露頭で化石の観察が可能か観察し、その理由を選択する」問題の正答率は全国の正答率を5.6ポイント、県の正答率を1.8ポイント上回った。 ●「東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する」問題の正答率は、35.9%であった。全国、県の正答率を1.7ポイント上回ったものの、正答率は、35.9%であった。	・露頭で観察できる地層の様子を比較して地層の繋がりや地層の傾きを類推できるということを意識させた指導をしていくことで、科学的な見方や論理的な考え方を定着させたい。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について
○「1, 2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」という質問に対して肯定的回答が77. 9%で、県の平均より6. 1%上回った。
○「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して肯定的回答が87. 7%で、県の平均より5. 1%上回った。学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いと言える。
●「解答時間は十分でしたか」の理科について肯定的回答が、全国の肯定的回答よりも少し下回っている。授業の中で、解答時間を設定するなど、生徒が時間を意識するような授業の工夫をしていく。
●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)」という質問に対して1時間以上すると回答した生徒の合計は全国平均より上回っているものの、県の平均よりも下回っている。
生活や考えについて
○「自分には、よいところがあると思いますか」という質問に当てはまると回答した生徒が53. 3%で、県の平均より13. 8%上回っている。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に当てはまると回答した生徒が85. 1%で、肯定的回答全部を合わせると、97. 9%になり、ほとんどの生徒が人の役に立ちたいと思っていると言える。
○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という問いに対して、肯定的な回答の生徒が60%おり、県の平均を14%上回っている。これは、本校の生徒にボランティア活動に意欲的に取り組みたいと思っている生徒が多いからだと思う。
●「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」という質問で、30分以上読書をするという生徒は45. 2%で、県の平均を9. 8%下回った。家庭での過ごし方について、さらに詳しく調査することを検討したい。
携帯電話やスマートフォンについて
○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」という質問に対して、81. 1%の生徒が肯定的回答で、県の平均を9. 1%上回っており、家庭内で使用の際のルール作りがなされている家庭が多い。
○「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか」という質問では、1時間以上2時間より少ないと回答した生徒が最も多かった。3時間以上と回答した生徒は県の平均より少なく、6. 7%下回った。家庭での過ごし方について、さらに詳しく調査することを検討したい。

宇都宮市立横川中学校 (第3学年)
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・「分かる授業」の展開及び家庭学習の確立による基礎・基本の定着と「主体的・対話的で深い学びの実現」による思考力、判断力、表現力、学びに向かう力の育成。	・基礎的・基本的事項の定着を図る「分かる授業」の展開 ・自主学習ノート、AI型学習ドリルの活用による家庭学習の定着と家庭学習内容の充実に向けた指導 ・読書活動の充実	○「1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して肯定的回答が87. 7%で、県の平均より5. 1%上回った。自ら学習に意欲的に取り組んでいる生徒が多いと言える。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対して1時間以上すると回答した生徒の合計は全国平均より上回っているものの、県の平均よりも下回っている。	・家庭学習や読書の充実	・自主学習ノート、AI型学習ドリルの活用による家庭学習の定着と家庭学習内容の充実に向けた指導 ・読書活動の啓発